

平成 20 年 7 月 18 日  
財団法人気象業務支援センター

## JRA-25 長期再解析データの提供についてのお知らせ

気象庁が（財）電力中央研究所と共同で作成した 1979 年から 2004 年までの JRA-25 長期再解析データを、近日中に当センターから提供開始します。

長期再解析データは、過去の観測データを最新の技術を用いて解析することにより、過去の気象状況や大気の立体構造を一貫した品質で再現したもので、その内容等は下記のとおりです。

### 記

#### 1 データ内容について

- 1) 解析期間 : 1979 年から 2004 年までの 26 年間
- 2) 解析時刻 : 6 時間ごと (00,06,12,18UTC)
- 3) 分解能 : 水平方向の格子間隔約 120km
- 4) 要素 : 気温、気圧、風、降水量、海面水温など

#### 2 データの特長について

これまで実施された欧州や米国の再解析に比べて、熱帯域の降水表現や熱帯低気圧の解析精度が優れていることが挙げられます。

#### 3 データの提供について

- 1) 提供期間 : 1979 年～2004 年 (26 年間)  
※26 年分を一括して提供する予定です
- 2) 提供開始日 : 近日中に別途お知らせいたします

以上

## 【参考】

平成20年7月18日  
気象庁 地球環境・海洋部

# お知らせ

－ JRA-25長期再解析データの提供について－

気象庁は、(財)電力中央研究所と共同で1979年から2004年までの長期再解析(JRA-25)を実施しました。

長期再解析とは、過去の観測データを最新の技術を用いて解析することにより、過去の気象状況や大気の立体構造を一貫した品質で再現することです。

このほど、JRA-25データの提供について所要の準備が整ったことから、下記によりデータを提供しますので、お知らせします。

## 記

### 1. JRA-25データについて

JRA-25データは、気象庁と(財)電力中央研究所が共同で作成した1979年から2004年までの26年間の全球数値解析データです。

解析に用いた数値予報モデルは、2004年当初の気象庁の現業モデルに準拠した低分解能版(格子間隔約120km)を採用し、データ同化手法は3次元変分法を採用しています。

本データの特長としては、熱帯域の降水表現や熱帯低気圧の解析精度が優れていることが挙げられます。

## 【参考】

(平成18年5月19日付、気象庁報道発表資料)

<http://www.jma.go.jp/jma/press/0605/19b/jra-25.html>

### 2. データ提供開始日

別途お知らせします。